宇土市地域学校協働活動便り

「結（ゆい）」

No.2

R7.5.10
発行

宇土市教育委員会
生涯活動推進課
生涯学習係
文責:中村敬人
TEL0964-22-6510

「学校を核とした地域づくり」を目指して

上記のめあては、地域学校協働活動が目指すものです。言うまでもなく、学校は子供同士、保護者同士、校区民同士を繋ぐ場所と して重要な役割を果たしています。

私は今の仕事に携わる前は３７年間、学校の教師として十数校の学校に勤務しました。 その内の３校が児童・生徒数の減少等により廃校となりました。いずれも天草の学校です。

校長として赴任した平成１８年には９３校（市町村合併の年）、教頭として赴任した平成８ 年には１１７校、教諭として赴任した昭和６０年には１４０校ほどの学校が天草にはありました。（令和６年度末現在では５１校）。いずれも小規模校ながら地域との繋がりがとても緊密な学校でした。そして、いずれの学校も校区挙げての大運動会が開催されていたことを覚えています。運動会終了後の反省会も盛大でした。他にも様々な教育活動を通して、教職員（取り分け若い教職員）は地域に育ててもらった 側面が多々あったように思います。紛れもなく 私もその一人でした。

現在のコミュニティ・スクールではありませんが、各々の学校が「地域とともにある学校」 として存在していたように思います。そして、学校の教育活動を全面的に支援することで「学 校を核とした地域づくり」で繋がる住民同士のコミュニティが存在していたように思います。私くらいかそれ以上の年配の方なら上述した内容を思い浮かべられるのではないでしょう か。そう考えると、学校の果たす役割がいかに大きいかをご理解いただけると思います。

以前、廃校になった学校を訪ねたことがありました。既に更地になり昔の面影はありません でしたが、何人かの当時の住民と話をする機会がありました。そして、その方々の口からは同様に 「学校がなくなると寂しかね。」、「行事の度に学校に足を運んでいたが、それがなくなり 隣近所の人との会話や繋がりが希薄になったばい。」等、互いにつながり合う場所を失くした負の部 分を多く聞きました。

幸い、本市の各小・中学校はコロナ禍を乗り越え、それ以前の校区との繋がりを取り戻し、良好な関係で教育活動が営まれています。

そこには学校の努力と共に熱い眼差しで学校を眺め、学校の教育活動を全面的にご支援いただける多くの校区の方々の存在があるからこそのことと頭が下がります。

いよいよ具体的に今年度の活動が始動する時期を迎えます。これまで同様のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

今年度の地域学校協働活動の方針及び事業計画について審議いただく第１回地域学校協働活動推進事業運営委員会を下記のように開催します。

令和７年５月２２日（木）１０：３０～　　市役所別館２階講習室

地域学校協働活動は、学校と地域が連携・協働して双方向で取り組む活動です。